

蓼科高同窓会報

発行
蓼科高等学校
同窓会事務局
0267-56-1015



地域とともに 文部科学大臣表彰

校長 佐藤 純也

平成三〇年十二月七日、本校が、文部科学省の第十二回キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰の受賞校に決定し、本年一月十八日に都内の国立オリピック記念青

少年総合センターにて表彰式が行われました。
この表彰は、キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められた学校等に對して、その功績をたたえ、



表彰式の写真

文部科学大臣が表彰することにより、キャリア教育の充実を促進することを目的としています。

今年度、本校が選ばれた理由として、同窓生や地域の皆様のご協力をいただき、『特色ある授業』として実施してきました「蓼科学（二年生）」、「地域Ⅰ（二年生）」、「地域Ⅱ（三年生）」、「蓼高タイム（全校生徒）」での取り組みが評価されました。地域を学ぶ、地域に学ぶ、地域と共に学ぶをテーマに、キャリア教育の学習に求められる、学校の学

習と社会との関連、自然体験・社会体験の充実、発達に応じた指導の継続、地域と連携した教育など、様々な要素を取り入れていくことも表彰理由となりました。

今回の表彰は、同窓生をはじめ、立科町や地域の皆様、関係機関のご支援のおかげと深く感謝申し上げます。今後におきましても、学校、家庭、地域、産業界等と一体となりキャリア教育の推進に努めていきたいと考えておりますので、同窓会の皆様方のご支援を賜りますようお願いいたします。



創立百二十周年に

向けての想い

同窓会長 両角 正芳

歴史ある地域高校が無くなることは、地域の衰退をも引き起こしかねない歴史的出来事であります。望月高校の募集停止が決定し、今後は長野西高校の通信制課程のサテライト校となります。蓼科高校として、今後再編対象校にならない保障は何処にもありません。

私たちが同窓会員も常に存続の危機意識を持ち活動を展開していかなければと心している次第であります。さて、我が母校も東京オリピック・バラリンピックが開催される平成32年（二〇二〇年）には、創立百二十周年を迎えます。学校側とも協議す

る中で、どのような記念事業にしていくべきか議論を始めたいところであります。記念行事開催の時期には、再編・整備計画の策定が行われる頃との予測もあり、この機会を捉え地元の方々の手で創り育んできた蓼科高校の存在意義を再認識いただき、目指す高像を示せるような記念事業になればと願っています。

今日まで、地元行政や企業皆さんの支援により、通学バスの運行並びにポプラアガデー（公設の学習塾）の開設効果によって、存続可能な生徒数が確保されてきております。しかしながら、少子化による生徒数が減少し、今後とも3クラス維持を続けていけるのか、大変危惧されるところであります。蓼科高校が存続発展を続けるためには、「蓼科学」を始め他校にはない特色ある蓼高スタイルを地域挙げて作り上げることが必要ではないでしょうか。

終わりに、会員皆様のご多幸・ご活躍を念願申し上げ、会報発行に当たっての挨拶と致します。